



柴原専務理事(右から2人目)と本紙編集委員の飯田慶雄・生野正。右は日刀保・村越康人総務課長

本日はお忙しい中、ありがとうございます。四月からは令和四年度に入るわけですが、

長く続く新型コロナウイルス感染症パンデミックの下で、刀剣の世界も例外ではなく、大きな影響を被ってきた。現状はどうか。明るい展望は見えるのか。刀剣界を牽引する両団体の幹部に、新年度の開始に当たって事業全般にわたるお話を伺った。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会 専務理事 柴原 勤氏

本年度を迎えるに当たって、貴協会の事業全般や今後の展望などについて、幅広くお話を伺いたいと存じます。

多岐にわたる刀剣等の保存事業

柴原 最初に申し上げたいことは全国刀剣商業協同組合(以下「刀剣商組合」と日本美術刀剣保存協会(以下「協会」)は、日本刀の保存・保護については車の両輪のようなもので、大きな影響力を持っている組織だと思います。

特別インタビュー

刀剣界の現況と近未来 (公財)日本美術刀剣保存協会 (公財)日本刀文化振興協会に聞く

2022.4.15 No.63

発行人 深海 信彦 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089 http://www.zentoshou.com/

第63号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正 瀬下 明 土子 民夫 網取 謙一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

成果の向上につながっていくと思っています。 今年は二つのコンクールを開催



る刀剣類の保存および公開、さらには無形文化財としての日本刀の製作と研磨、ならびに刀装具の製作等の技術の保存向上に資するとともに、作刀に必要な材料の確保を図り、これに関する調査研究と鑑賞指導を行い、わが国文化の普及と文化財の保護に寄与してまいりました。これ

柴原 まず、新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けた皆さまにお見舞い申し上げます。この三年に及ぶ新型コロナウイルス感染症拡大による影響はいかだったでしょうか。

そのほか、「現代刀職展」をはじめ現代作家のコンクール展示も予定しています。いしえの技を究めた作家の素晴らしい作品をお楽しみいただけることでしょう。

現代刀コンクールについて伺います。「令和の名刀・名工展」開催につき、当初は見合わせとなっていた「現代刀職展」ですが、やはり開催することになったと伺いました。現代刀コンクールを年に二回行うことになった経緯などをお聞かせ願えますか。

刀剣・書画・骨董 和敬堂 土肥豊久・土肥富康 〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16 TEL 0258-33-8510 FAX 0258-33-8511 http://wakeidou.com/

刀剣 高吉 古名刀から現代刀、御刀のこならお任せください! 連絡先 090-8845-2222 代表者 高島 吉童 東京都北区滝野川7-16-6 TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116 www.premi.co.jp

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階 (株)銀座泰文堂 代表 川島 貴敏 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 http://www.taibundo.com

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑 日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD. (株) 日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1 TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

日本刀・刀装具 販売・買取 美術刀剣松本 松本 富夫・松本 義行 TEL.04-7122-1122 千葉県野田市清水199-1 刀剣松本 検索

↑次ページに続く

刀 剣 界

を期待いたします。本紙でも繰り返し訴えている新たな重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定についてはどのようにお考えでしょうか。

柴原 協会の重い使命として、伝統技術の伝承と向上がありま。それについては人間国宝の存在が不可欠ですし、職方の皆さんの活躍が一番大切です。

——日本刀の製作に欠かせない玉鋼ですが、その製造を担う日刀保たたらは現況はいかがでしょう。

柴原 通常、年に三回操業するところ、本年度は感染症の影響で一回しか操業ができませんでしたが、玉鋼の供給については不足する事態にはなっていませんが、伝統技術の継承という面では問題です。たたら操業は協会の最も大事な事業の一つであり、今後も継続発展させていきたいと考えています。

近年では「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」のご尽力により助成金も増額されるなど、理解が深まっていることほありがたいことであり、力強く感じています。引き続き各方面のご指導、ご協力を仰ぎながら、当協会の事業にご理解を深めていただけるよう努力したいと考えています。

●審査への新制度導入について

——刀剣等の審査事業について伺います。システムに変更がありましたか、その狙いは何でしょうか。

柴原 当協会では鑑定・資料収集事業において刀剣類の審査を行っています。この三月の鑑定

審査から受付方法を変更させていただきます。事前予約制と、従来の書面による申請に加え、インターネットによる申請方法を導入しました。

受付日に物件をご持参またはご送付いただくことは、これまでと変更はありません。インターネット申請をご利用いただけます。専用サイト上で申請履歴や審査結果、審査関連のスケジュール等が自宅や職場、外出先どこにおられても二十四時間ご確認いただけます。また、専用サイト上では住所や電話番号変更の手続きも可能となります。

ここ数年、送付による申請が全申請数の約半数に上る状況ですが、これまでは送付申請物件については引換券（新制度では預かり書兼引換書）が発行されていまして、この部分の改善が課題でしたが、今後は送付申請物件についても預かり書兼引換書を発行し、郵送できるようになり、大きく改善されます。

新制度導入当初は何かと不便や面倒をおかけすることもあるかと思いますが、先ほど申し上げたような機能をご利用いただくことで、会員様・申請者様のお役に立てるものと思っています。ぜひご利用いただきまして、皆さまから忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

——審査への申請が半数は郵送になってきているというのは驚きですが、時代の変化によって利便性が上がってきているということなんでしょうね。組合では毎度のことながら、鑑定書の発行サイクル短縮をお願いし

ていますが、この点いかがでしょうか。



地元からも歓迎されている刀剣博物館

ていますが、この点いかがでしょうか。

柴原 鑑定書の速やかな発行については専務就任以来、一番の課題と考えており、常日ごろ解決策を模索しているところです。

審査の流れについてご説明しますと、審査受付後、審査品保管庫にて保管、審査前に油を拭く等の準備をし、厳正な審査を実施するため、予備審査を経て本審査を行います。審査後の業務として、合格品については資料および鑑定書用の写真撮影を行い、写真の確認・点検と調査（作品の名称・法量・品質形状・地鉄・刃文の状態・製作年代・申請者氏名等）を作成します。調査の確認・点検後、結果通知書を作成し、その内容を一点ずつ確認・点検後、申請者に送付しています。

鑑定書については、調査の確認・点検が完了次第、作成を開始します。作成はまず証書番号・発行年月日等を鑑定書原紙に印刷し、刀剣は種別・銘・極め等、刀装・刀装具は画題・銘・形状等を、保存鑑定書は印刷、特別保存鑑定書・指定書は手書きで記載します。その後、押印・刻印

古聴 第六回

大正生まれの兜愛好家と昭和生まれの仲間たち

網取 謙一

「人の寿命というのはな、生まれるときから決まっているんだよ。こう言ったのは、横浜市在住の兜の収集家だった石井雪男氏。

大戦中は擲弾筒を運び、戦後は長くビル会社の労組の委員長を務めた。これは氏と俺の共通の知人、日本甲冑武具研究保存会評議員で、水質管理と環境プラントの仕事も志半ばの四十三歳という若さで他界した望月隆司氏を悼む俺に語った言葉だ。平成二年の夏



兜 銘 天文三年甲午十二月吉日 明珍信家

だったと思う。

既に鬼籍に入った前記の二人と、若かった甲冑愛好家三人の計五人が俺の自宅に集まったことを思い出す。約四十年前だ。

航空機の整備士だった金山順雄氏、建設会社にお勤めだった折笠輝雄氏、歯科技工士だった小松康祐氏。三人とも甲冑の世界では高名な方々となっていくが、折笠氏とは現在音信が途絶え、心の病と闘っていらっしやるという風の便りがある。海外からも氏を心配する声が届き、快気が待たれる。

当時の当家、木造平屋建ての玄関にうずたかく積まれたなかなか手が付かない甲冑品類の分類を五人に頼んだのが俺、彼らも興味半分で自慢の一眼レフ（もちろんフィルムカメラ）を手に手にやってきました。

一方、俺がもう一つ頼んだのが資料提供だったのだろうか。カメラと一緒に折笠氏が持ってきてくれたのは、秘蔵であったろう信家

の兜鉢。信家と言えば、戦前まで鐺工の信家と混同されていた様子が伺え、その謎解きはあまりにもゆっくりだ。その理由の一つは、天文や大永の年紀があるのに、中世の胴丸や腹巻の皆具の一部として発見された事例がほとんどないからだろう。

彼らは前人たちが何十年もかかった特徴の把握を、三十分で俺に叩き込もうとした。さらに簡単に省略すると次のように整理できる。

- ・三光鉾はマールチョコの形（望月氏。このお菓子は現在作られていない）
- ・破立て台は薄く平たい（金山氏）
- ・筋立ては低く、天辺に近づくとつれ、さらに低くなる（小松氏）
- ・信家作より信家花押のものが多く肯定されている（折笠氏）

石井氏はこのころ既に、信家よりはもう少し時代の若い早乙女鉢や雲海などの工芸性の高いものに心が奪われていたと記憶している。横浜の氏の自宅の書齋は、日本甲冑武具研究保存会前会長の故藤本殿氏により好兜庵と名付けられ、海外の愛好家からはミスターヘルメットと異名をとった。

望月氏は、最上胴や雪ノ下胴などの東日本によく見る甲冑と馬具に傾倒していく。金山氏と小松氏は、本小札や伊予札の中世から近世の過渡期の西日本によく見る甲冑に傾倒していく。そして折笠氏は信家・義通・高義などの名工と馬具にさらに傾倒していく。

一方、俺は信家と銘のある兜を目の前にすると、この日に戻る進歩のなさを。

二箱のサンドイッチを六人で分け合い空腹をしのぎ、陽の傾く時間、俺は皆を最寄りの私鉄の駅まで送っていった。その時、石井氏が駅前の居酒屋のぼりに目を奪われる。「やっやっ食いゃな」俺はこの日、五人をもてなしていない。この日が俺の財産となつたのに、俺の財布は空だったのだ。俺の空財布は今に始まったことではなく、四十年前から同じだった！

最後に、石井氏の言葉をもう一言紹介しておく。

「人は死ぬときな、幸運と不運が大体同じ数になるんだよ」

今日まで、俺ほど運のない奴は少ない。ということは、俺はもう少し生きられるな。

●地元にも愛される博物館に

——鑑定の精度を保つことが最優先であることは論を俟たないと思われるも認識していただきます。どうぞ引き続きご検討をよろしくお願いします。

ところで、先だって博物館の屋上庭園に向かう地元住民の方たちとお話をさせていただきました。展覧会以外に、地元との交流を図る機会も増えているのでしょうか。

柴原 地元の歓迎度が高いのはうれしいことで、区長をはじめ地元の町内会などの皆さま方か

●刀剣商組合

らこんなにも歓迎していただけたのかと感謝しています。観光組合の行事に名品を出してもらいたいというご依頼を頂いたら、刀剣博物館前というバス停を設置していただきます。区のお祭りなどでは一階のカフェスペースを提供してお茶会なども開催して地元の皆さまとの交流を深めており、これは移転前の博物館ではなかった新しい展開です。で、今後も交流を深めていきたいと思えます。

——今後とも貴協会の活動に期待するとともに、ますますの発展を祈念しております。長時間にわたって貴重なお話をありがとうございました。（聞き手/飯田慶雄・生野正）

刀剣商組合 30万円寄付

明美ちゃん基金
全国刀剣商組合連合会が17日、千代田区大平町の産経新聞社を訪れ、国内外の心臓病の子供たちを支援する「明美ちゃん基金」の運営に30万円を寄付した。

同組合は毎年秋に刀剣類を展示し、大刀剣市を開催し、会場で寄付を募っているが、今年も組合がある限り、今年も「明美ちゃん基金」への支援を継続していき、拡大で中絶した。深堀いとし

刀剣界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

刀剣界の現況と近未来

公益財団法人日本刀文化振興協会 事務局長 高森 邦彦氏

「ご多用な中、お時間を割いていただき恐縮に存じます。今回は日本刀文化振興協会(以下「刀文協」)の今後の事業や活動についてお話を伺っています。」

●人材育成と技能継承

高森 こういう機会を作っていたら、誠にありがとうございます。

当協会は、公益法人新法の施行に合わせて平成二十年十二月一日、一般財団法人として設立されました。新法人では異例に早く、翌年十二月十日に公益認定を頂き、令和元年に丸十年を迎えました。

そこで、十年間の活動を振り返り、環境の変化等も踏まえて当初の公益目的事業の見直しを行い、公益認定等委員会にその変更認定を申請していただき、昨年五月三十一日付で当時の菅義偉総理大臣名で変更が認め



インタビューに答える高森事務局長(撮影/生野正)

ら、昨年五月三十一日付で当時の菅義偉総理大臣名で変更が認められました。六月から新しい事業を正式に開始したところで、

●「日本刀名匠」と「新作日本刀証明証」

「おそろしくその指導者クラスの方々を対象だと推測される「日本刀名匠」認定事業は、どういう趣旨で開始されたのでしょうか。」

高森 過去の展覧会などの実績を振り返り、刀職者として既に審査員を務めるまでの域に達し、十分卓越した技量と認められ、もはや今後コンクルの審査対象外として申し分のない方々をどう処遇すべきか、長年検討してきました。その結果、公益事業として「日本刀名匠(各分野)」という呼称で認定制度を作りました。「現代版刀職者マイスター」とも言うべき位置づけです。

これに対して、作品に発行するものに「新作日本刀証明証」がありますね。

高森 こちらは収益事業に入りますが、現代作家の作品には公的な機関からの真正に関する認定書のようなものはなく、その結果、現在活躍中の有名作家の「偽物」が横行していることは周知の事実です。そこで当協会では、現代刀作家作品の価値をおとめないため、また刀剣業界の信用のためにも、作家本人の作であることを証明する「新作日本刀証明証」を発行することとしました。この証明証には、海外の刀剣ファンのためにも英語表記を加えています。

「新作日本刀第十二回展」 「新作日本刀 研磨 外装

からも喜ばれています。

刀職技術展覧会」は恒例化して、今回で十二回を数えます。出品者に対して申し上げたいことがありましたら...

高森 私の立場から言えることは、ぜひ毎回出品していただくこと。成績に一喜一憂せず、真摯に取り組んでいる刀職者は必ず評価されているようです。審査は公正ですから、どこが良くどこが悪いかを聞けば、課題が見えてきます。

この展覧会は、自分の作品を客観的に見てもらえる場であり、継続して出品することが大事で、良い結果が出ればいずれ仕事に結びついてきます。

同展は六月から八月に長野県坂城町・鉄の展示館で開催しますが、今秋には重要文化財である明治神宮宝物殿を会場に、特別展の開催も予定しています。

●明治神宮宝物殿での特別展

明治神宮宝物殿での現代刀剣展は、おそろしく初めてでしょう。

高森 今年は明治天皇ご生誕七十年に当たり、これを寿ぐ記念の特別展とさせていただきます。日本刀文化を内外に発信する機



今秋の特別展会場となる明治神宮宝物殿

申すまでもなく、明治天皇は愛刀家であり、廃刀令後の伝統復活の道を開かれた方です。復活のおかげで今の「人間国宝」の前身である「帝室技芸員」に二名の刀工が任命されました。このように刀剣界にとって恩人とも言える御祭神をお祀りする明治神宮での現代刀剣展には大きな意義を感じます。

今秋、組合の大刀剣市が開催される環境が整えば、東京国立博物館の国宝展なども併せ、刀剣巡りの一環として多くの方にお越しいただきたいものです。

刀文協の公益目的事業には不特定一般向けもあります。その関連で特に指摘したい

事柄がありましたら...。高森 従来の刀剣界には、意図せずして初心者が近寄りにくい対応が多かったのでは、と感じております。

最近、よく問い合わせがありますが、例えば、自宅から刀が発見されたので警察に相談すると、あたかも持っていないかのように言われてしまう。多少の知識のある人からは、お金をかける価値のないものだと切り捨てられる。そこで「どうしたらいいでしょうか」と、当協会におずおず電話をしてもらえるわけです。

私が申し上げた一例を挙げると、「どんな状態のどんな刀でも、家に伝わってきた宝物です。たまたまあなたが発見した」ということは、ご先祖との縁をあらためて自覚する機会が与えられたということではありませんか?と。そうすると、今までの刀に対する見方が変わる。その上で、発見届のやり方や、その後の保存・処置などをアドバイスしました。

刀の文化はわれわれの身近にあります。それを知って、刀への関心をもっと持ってほしいものです。そのためには、初心者の方を大切に、育てていくことが斯界にとっても重要ではないでしょうか。

「当組合でも『やさしい刀』などを通して、発見届の啓発に努めてきました。刀剣界の発展のために、今後とも刀文協のご尽力をお願いします。本日はありがとうございます(聞き手/清水儀孝・網取譲一・伊波賢一)」

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂 代表取締役 飯田慶雄 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33 TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615 http://www.iidakoendo.com

アオバ企画(株) 高橋 昇一 〒113-0102 墨田区大平4-1-19 TEL 03-3621-1130 FAX 03-3621-1131 aobak@pb8.sone-net.jp

江戸屋 名品・名刀を販売 店主 小暮 昇一 〒529-1131 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1 TEL 0749-14212736 携帯 090-1316217641 http://www.goushuyahononou.com

田中勝憲 古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株)城南堂古美術店 代表 〒153-10051 東京都目黒区上目黒4-3-10 TEL 03-3710-6767 FAX 03-3710-6777

刀買取委託 e-sword 伊ソード 〒350-1115 埼玉県川口市野田町14-19 1F TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407 刀通販サイト www.e-sword.jp 日本刀 イーソード 検索 mail:info@e-sword.jp (株) e-sword 平子誠之

刀 剣 界

「登録証問題」を考える 29

事例④ 現物確認は絶対に必要か

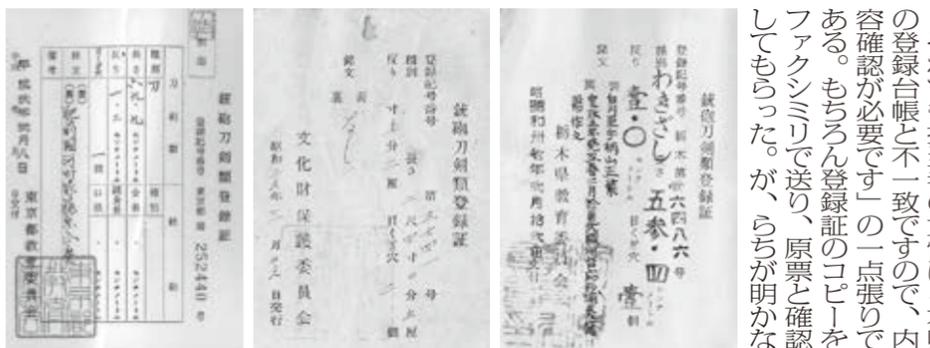
栃木県発行の登録証の登録内容を確認した。

銘(表) 白川臣手柄山正繁
(裏) 寛政五年癸丑春二月
於東武駿河台心杉浦義
篤需作之

種別・長さ・反り・目釘穴の数・
交付年月日・表銘、すべて一致し
ている。だが、問題は裏銘であっ
た。「杉浦義篤需作之」が台帳に
は「形」一字であるという。

登録審査委員によりちゃんと読
み取られた銘文が書かれており、
すべて合致しているのだから、昭
和三十七年当時の登録事務の担当
者が、杉浦の杉を形と読み、それ
以下の銘文の記入を怠って、台帳
に記載しなかったという、ただ、
それだけなのである。

それでも担当者の女性は「本県
の登録台帳と不一致ですので、内
容確認が必要です」の一点張りだ
る。もちろん登録証のコピーを
ファクシミリで送り、原票と確認
してもらった。が、ちがいが明かな



い。銘文が長く、意味が取りにく
いから、杉を形と読んで、以下を
書かなかったのかも知れないが、
登録審査委員が読み取った通りに
台帳に書かなかったせいで、令和
四年のわれわれが迷惑を被る……こ
れを理不尽と言わずして何と言っ
た。次は石川県である。登録証に都
道府県の記載がなかったため、調
査したところ、石川県だった。

長さ・反り・目釘穴の数・銘文
(無銘)、すべて一致している。た
だ、種別の記載がなく、日付がわ
ずかに異なっているという。コ
ピーを送付すると、石川県登録の
刀であることは認めてくれたが、
いささか異なるので、現物確認を
お勧めします、と言った。

この登録証は昭和二十六年三月
二十六日で初年度の登録である。
東京都はこういう場合、登録証コ
ピーを添えて名義変更は可能で
す、ということが多いので、その
旨尋ねると、石川県は、届け出て
いたが、受理した後、あらため
て検討します、という回答であっ
た。現物確認が必要なら必要、不
要なら不要(できればそうしてほ
しいのだが)と態度を明らかにし
ないのは優柔不断で無責任だなあ
と思いつつ、回答を待つことに
した。

しかし、待てど暮らせど回答は
なかった。三日目に電話をしたと
ころ、電話口の人に、また一から
説明をしようやく話が通じ、石
川県は所有者変更届出書を受理し
ましたとの回答を得た。所有者
変更届出書を受け付けるか否かが
焦点で、その回答を待っていたの
に、しよせん、他人事ということ
か。ともあれ、現物確認審査に出
張することは避けられたが、石川
県の例も、登録時の記載の不備で
あることは明らかである。

東京都も「河内大塚」を「河内
塚」と書いて登録していた。現物
確認審査が必要だということで、書

類を書いて、特別保存刀剣鑑定書
のコピーを同封して送付した。
鑑定書の裏の写真で銘字を確認
し、「大が抜けているだけですね。
現物確認にいらっしゃる必要はあ
りません。訂正交付しましょう」と
言ってくれたらいいなあ、と思
ったが、だめだった。東京の例
も、登録時の記載ミスと確認の怠
りが原因である。

これまでに本欄で紹介した事例
や、今回の栃木、石川、東京の例
ではっきりすることがある。それ
は、今日、発生している登録証問
題の多くが、登録証交付後の改竄
や偽造によるものではなく、登録
証交付時に、登録審査委員や事務
担当による測定ミス、記載ミスが
原因ということである。

それが何年かした後に明らか
になった時、登録証と原票、あるいは
現物と登録証・原票とが不一致
であるからという理由で、現所有
者が現物確認を強要されるとい
うのは、全く解せない話である。
現所有者が、ほんとは些細なミ
スのせいで、一月月に一回しか
ない登録審査会に、わざわざ足を運
ぶのが当たり前だとしてよいのだ
ろうか。

そんなことをしなくても、茎の
デジタル写真をメールで送付し、
それを確認して旧登録証を回収し
た後、訂正した登録証を再交付す
れば済む話ではなからうか(本欄
で紹介したように、静岡県はその
方法で訂正再交付をしている)。

適切に対処すればいい話だし、
不正は起こり得ないと思われるの
だが、不一致、即、現物確認、と
いう対処ではなく、状況をよくよ
く勘案して、現所有者に負担の少
ない、簡便な訂正再交付が行われ
ることを切に希望するものであ
る。

時間と負担がかかることが原因
で、所有者変更の手続きを奨励し
ている刀剣商組合や所管の警察庁
の行政に逆行しているように思わ
れる事例が続出しているのも当然
のように思える。

(登録証問題研究会)

交換会紹介

岡山刀剣クラブおかげさまで四十周年

〈会主からのメッセージ〉

私は、岡山刀剣クラブの会主を
させて頂いておられる宮本佳幸と申
します。

この会はもう四十数年の歴史が
あり、私の亡くなった父もずっと
参加させて頂いておりました。そ
の歴史ある会の、現在は代表役員
である佐藤均さんから会主を受け
継がせてもらい、大変光栄に思っ
ております。

今参加されている会員の皆さま
も、とても人柄もよく、健全に会
を運営することができておりま
す。これからも、刀剣業界に少し
でも貢献できるように、頑張りた
いと思っております。

〈会員の声〉

毎回、父と一緒に参加させてい
ただいています。私自身はまだま
だ経験が少ないのですが、アット
ホームで和気藹々とした雰囲気
が素敵な市場です。(岡山県N氏)

いつも岡山刀剣クラブに参加さ
せていただいております。新規参
加ですが、先輩方が親切で、和や
かな雰囲気が魅力的な倶楽部で
す。(神奈川県U氏)

数年前にお誘いをいただき、北
九州から参加させて頂いてお
ります。長く歴史のある刀剣会と
聞き及んでおります。参加してい
るメンバーも紳士的な方々で安心で
きます。

主催者の人柄のように、入札や
セリの合間にも笑いが絶えない楽
しい会です。品揃えは手頃なもの
から高額なものまで多種多様で、
それぞれの価値観と見合う品が納
得の価格で購入できる、業界でも
数少ない優良な会だと思います。

〈主催者代表からのメッセージ〉

私は岡山刀剣クラブの運営およ
び代表役員のお役を頂戴していま

す佐藤均です。当刀剣クラブは発
足以来、早いもので四十周年を超
えることができました。初代会主
は岡山市の藤田光雄氏、二代会主
は堺市の三木義和氏、そして今か
ら約二十年前に三代会主を拝命
し、しばらくの間職務に当たらせ
ていただきました。現在は会主を
宮本氏に委ね、代表役員および運
営責任者としてマネージメントさ
せていただいております。

会員の声にもありますように、
当刀剣クラブの最大の特徴は、
アットホームな雰囲気を重要視し
て運営に当たらせていただいでい
ることです。「笑顔でお迎えし、
笑顔で帰ってくださること」を常
に心掛けており、参加者の皆さま
にも喜んでいただけているものと
確信しております。

また、刀剣業界の高齢化にも配
慮し、テーブルと椅子の様式とし

従前の刀剣会に見る、立ったり座っ
たりといった膝や腰への負担を極
力軽減するように工夫しています。
加えてもう一つは、そのユニ
クな会計方式が挙げられます。年
間取引額に比例して収益のほぼ全
てを個々の会員に還元しており、
こういった公益化に努め
る当クラブの理念に対
し、プラスチックで喜
んでいただいております。

また、決済は原則とし
て現金、あるいは売り主
が分割回数を自由に設定
できるオーナーセレクト
制を導入しています。
私自身、四十年間にわ
たって岡山刀剣クラブに
深く関わらせていただいで
いますが、「継続する
ことの大切さ」をひ
ひしと感じています。こ
れもひとえに会員の皆さま
による自助共助の気持

ちが一つになっている証しと捉え
させて頂いております。
百年続く刀剣会を目指し、後進
への指導にも注力し、今後も刀剣
業界に対して刀剣・刀装具類を主
とした安定供給に寄与させていた
だきます。



訃報

大沢都志夫さんを偲ぶ

私たちの組合員として長年に
わたり活躍されてきた大沢都志
夫さんが、三月一日に逝去され
ました。

大沢さんは健康上の理由か
ら、組合の行事に参加すること
が難しいということに既に退会
されていましたが、私と優古堂
の三浦優子さんが葬儀に参列し
ましたので、報告させていただきます。

大沢さんは昭和十六年生まれ
で、同四十二年ごろまで杉並区
で電気業を営んでいました。日
本刀が好きで、二十六歳の時に
生地である埼玉ときがわ町に
刀剣店「しのぎ刀剣美術館」を
開き業界デビューしました。

大沢さんは研究熱心で、独学で
勉強し指導者になられた方です。
業歴は五十年にも及び、晩年はN
PO日本刀剣保存会の理事・鑑定
員として、国内はもとよりアメリ
カ支部でも貢献されておりました。
また、地元でも刀剣教室を開くな
ど啓発活動にも余念がありません
でした。

体調を崩されてからも努力
を惜しまず、版画の制作や書
籍の出版などをしておられた
と伺います。

昨年夏ごろから自宅近くの
保養施設に入居されていまし
たが、今年に入って容体が悪
化、惜しまれながらお亡くな
りになりました。



葬儀は三月四日、ときがわ
ホールで執り行われました。
コロナ禍の中、ご親族をはじめ

め、ご友人、ご近所や刀剣会の
方々が出席され、故人を偲びま
した。
戒名は、鑑山都劍信士。いか
にも刀の世界に生きた方だとわ
かります。大沢さんの生前の功
績を称え、謹んで哀悼の意を表
しますとともに、ご冥福をお祈
り申し上げます。(生野正)

NEWS & TOPICS

進駐軍に接收された旧国宝 オーストラリアで発見か

「刀剣美術」新年号の記事「旧国宝・無銘則重と思われる刀との邂逅」を読んで驚愕された方は少なくなかったと思われる。

書かれたのは、オーストラリアのメルボルンに住む弁護士のアラン・ブルックスさん、六十六歳。十二ページにわたって取り上げたのは、四年前にインターネットのオークションサイトで見つけ、五三〇〇ドル余り、日本円にして六〇万円ほどで落札したという無銘の刀。これが行方不明になっていた旧国宝の無銘則重ではないかという論旨である。

当該刀だとすれば、当時の資料に「旧国宝（大正七年四月八日指定）、刀 無銘 伝則重 付白柄蠟色鞘脇指拵、刃長二尺一寸、所有者 鹿児島神宮、昭和二十年十二月三十一日国分警察署へ提出、同二十



鹿児島神宮の無銘則重である可能性が高い

一年一月二日第八海兵隊第三大隊司令官ヘイワード中佐（とあるものにほかならず、接収が免除されるべき国指定品であるにもかかわらず）

されず、何者かによって横領され、七十五年後の今、初めて姿を現したことになる。

ブルックスさんは本文の最後に「この則重が私の死後に鹿児島神宮に戻されるのが私の願いであり、それが確実に履行されるよう、既に遺言状をしたためてある」と、今の思いを明言しておられるのが救いだが、これほどの年月の経過は悔やまれるところである。

その後、NHKや新聞各紙が追跡取材をし、鹿児島神宮の無銘則重にほぼ間違いなく確認されている。

文化庁はNHKの取材に対し、「実物はまだ見えていないが、特徴が一致していることから、おそらく『刀 無銘則重』だと考えていて、今回の発見は非常に喜ばしい。所有者の求めに応じて、本物かどうかを確認したり、返還の際に調整したりしたい」とコメントしている。

文化庁によると、昨年三月の時点で所在不明となっていた重要文化財は百四十二件あり、この中で刀剣は半数以上の七十二件を占めている。ここには終戦時に提出したまま未返還・行方不明となっている旧国宝の刀剣数も含まれている。

NEWS & TOPICS

「足利長尾の武と美」展を機に 刀剣「コラボグッズ」で街が盛り上がる

市制百周年記念特別展「戦国武将 足利長尾の武と美」その命脈は「永遠に」は二月十一日～三月二十七日、足利市立美術館で開催されたが、市街地の店舗が同展とコラボして独自のサービスを提供、市中は大いに盛り上がった。

五年ぶりとなる刀剣展の開催に、予約制のチケットは完売。展示の重要文化財「山姥切国広」が名刀を男性に擬人化した「刀剣男士」を育成するオンラインゲーム「刀剣乱舞」の人気キャラクターであることから、同館には全国か



国廣ラムネ 380円

（円）を一日限定二〇食で出張販売。クレープ店を経営するHELLOは「国廣ラムネ」（三八〇円）「国廣マスク」（二千円）のほか、オリジナルの刀剣コラボグッズを店頭で販売した。

HELLOの酒井洋子社長は「五年前の刀剣展に来てくれた皆さんが『国廣ラムネ』を喜んでくれたことから、足利を応援したい気持ちが生まれ、その後のグッズ展開やクレープ店の出店にまで至ったので、とても感謝している。今回も刀剣ファン皆さんに喜んでもらえる」と話していた。

また、足利市ではコラボ企画の一環として、声優の前野智昭さんが音声ガイドを務める「足利長尾ゆかりの町巡り音声ガイド」を製作し、提供した。

音声ガイドアプリ「聴く美術」を使い、足利市立美術館、史跡足利学校、鑿阿寺、大祥山長林寺、足利織姫神社、太平記館、あしかがフラワーパークの七カ所を紹介するもの。スマートフォンやタブレットにアプリをダウンロードし、アプリ内で「足利長尾ゆかりの町巡り音声ガイド」を選択して決済後、ガイドプログラムをダウンロードすると利用できる。

さらに、足利デザイン・ビューティ専門学校生徒らが、小中学生向けの冊子「長尾と刀と足利の歴史」を制作し、二月上旬から足利市内の小中学校に配布した。冊子の制作を担当したのは、同校クリエイティブデザイン科イラストコースを専攻する二年生の男女五人。足利学校や歴代足利長尾、「山姥切国広」について小中学生に興味を持ってもらうようと、足利市立美術館館長から依頼

Advertisement for the audio guide, featuring a woman and a smartphone displaying the app interface. Text includes '音声ガイド' and '足利長尾ゆかりの町巡り音声ガイド'.



「長尾と刀と足利の歴史」

を受け、制作が始まった。

制作期間は約四カ月。同館の職員と勉強会を行い、足利の歴史について理解を深めることからスタートした。漫画形式にした冊子は、せりふの難しい言い回しを避け、小中学生にもわかりやすいよう心掛けた。紙面のレイアウトやデザインなどもみんなで話し合い、完成させた。

刀剣展をきっかけに、市民や商店にこれを応援する気運が高まり、町の活性化につながってゆく。足利市の挑戦は今も続いている。

シリーズ 忙中閑あり

大平 岳子

「忙中閑あり」とは、どんなに忙しくても、わずかな時間の余裕はあるものだということ。その余暇を、あの人はどうして過ごしているのか。そっとのぞいてみましょう。

刀で「孫」と言えば孫六兼元とありますが、今回は私の孫について紙面を頂戴しました。現在、私には四人の孫（長男に三女、次男に一男）がいます。最近の私の趣味といえば、この三女の服選びです。上の孫はデザインプリンセスが大好きで、その服もプリンセスをイメージしたものがメインで、フリルやリボンの付いた、いかにも可愛らしいものです。私の子供は男の子だけだし

愛媛県教育委員会は、このほど、「刀剣製作」の技術保持者として松山市の玉岡俊行さんを無形文化財に認定するなど、新たに三件の文化財を指定した。

新たに無形文化財の刀剣製作技術の保持者に認められたのは、



玉岡俊行作「武鑑透象嵌大小鐔」

松山市の玉岡俊行さん（72）。玉岡さんは高度な彫金技術を用いて日本刀の鐔を製作する第一人者で、後継者の育成や刀剣文化の振興にも貢献している点などが評価された。刀剣界では高度な象嵌技術を駆使した透かし鐔の作者として知られ、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長）の「現代刀職展」無鑑査の認定も受けている。

このほか、有形文化財には松山市東野の東山神社に奉納されている陶器製の「鉄軸獅子」が、史跡には西予市宇和町の「笠置峠古墳」が指定されている。

これから、このフリリの服選びは、何とも楽しいものです。 二〇二二、三年はメルカリにハマっていて、暇な時間にチェックしては、あれこれ服の選択を楽しんでいます。昔はパートや子供服専門店のお店に出向かなければ購入できなかったものですが、時代が変わり、コロナ禍ということもあり、自宅で気軽に服を選び、購入ができて、高齢者にはありがたいことだと思います。 服選びとともに何より楽しいのが、それは孫の成長です。毎年洋服のサイズが変わっていく



孫娘のための洋服選びは楽しい

ブック・レビュー BOOK REVIEW

名もなき人々の過酷な運命への共感で描く源平合戦

『都鄙大乱―「源平合戦」の真実』

高橋昌明著 定価(本体二八〇〇円十税) 岩波書店

二〇二二年のNHKの大河ドラマは『鎌倉殿の13人』。北条義時を主人公に、源平合戦と頼朝、御家人たちの活躍の物語である。



『平清盛』で時代考証を担当された高橋昌明氏のこの本も、源平合戦をテーマとした歴史書である。しかし、従来の書籍とはいささか異なる。源氏と平家の戦いの発生、展開、結末を、貴族の日記(例えば藤原兼実の『玉葉』)のような同時代の記録史料や、これまでに発表された論文や著書は、好むと好まざるにかかわらず、源平合戦の時

代を生きざるを得なかった名もなき人々の舐めた辛酸、過酷な運命への共感、なのである。名もなき人々のことは、史料には残りにくい。それでも高橋氏は、そうした人々の動向をわずかで済ませず、政治と合戦に終始しないものを書こうと努めている。この挑戦が成功しているか否かについてはいろいろな見方があるが、ともあれ高橋氏の心意気をたたえたい。

この本には、こうだと思っていたことが、そうではなかったとわかって、びっくりする箇所が少なくない。例えは諸国の源氏に向けて発せられたという「仁王の令旨」にまつわる源氏の話。そもそも頼朝は、当初から源氏嫡

流だったわけではなかった。これは筆者の紹介で本書を読んだ知人も「面白い」と述べていたが、甲斐源氏の安田・武田や信濃の義仲、常陸の佐竹、さらには近江の源氏とまさか、諸源氏があり、伊豆蛭ヶ島の人であった頼朝は、可能性のある一人にすぎず、唯一無二の貴種ではなかった。

開国期の外交を担った幕臣の波乱に富んだ人生

『万波を翔る』 木内昇著 定価二二〇〇円(税込) 日本経済新聞出版

本書の主人公は、田辺太一という江戸幕府の旗本の次男坊。普通なら養子にでも行かない限り、部屋住みの身分だが、太一は優秀だった。

父の石庵は生前、昌平坂学問所の教授を務め、兄の孫次郎は講武所で教授方をしている。太一自身も、昌平坂学問所で抜きん出た成績

績を収め、甲府徳典館の教授に推されて学頭にまで上り詰めた。と言いつつ、何だか年寄りを連想してしまうが、また二十五、六の若者である(當時は隠居するの早かった)。

この後、長崎海軍伝習所に第三期生として学び、安政六年(一八五九)二十八歳で幕府外国書物方出役となり、外国奉行水野忠徳の下で働くことになる。

とにかく田辺太一はこの後十年間、幕府の外交を最前線で支えてゆくと、失敗ばかりだ。水野忠徳配下だったため、遣米使節団(勝海舟を中心として咸臨丸で行った最も有名な使節団)や遣欧使節団にも推挙されず、水野が自ら小笠原諸島に行った際に田辺も随行したが、それも途中で帰らなければならなくなる。

文久三年(一八六三)外国奉行支配組頭という地位に昇進し、ようやく仏国に行くことができた横浜鎖港談判では、交渉に失敗。組頭の役を解かれ退任させられてしまう。その後、小栗忠順の下で英国と折衝するもうまく行かず、最後は徳川民部大輔昭武を総代とする万国博覧会使節

一行に組頭に昇進して参加するも、薩摩が独自に参加するのを止めようと、五代才助にしてやられ失敗。(田辺や五代はNHK大河ドラマ「青天を衝け」にも登場していた) こうして書き進んでいくと、幕府の外交の失敗がそのまま田辺太一の失敗であり、この一連の事象こそ「万波を翔る」という題名の意味なのでしよう。そう、万波とは幾重にも寄せ来る波のことです。



外国奉行はほかに井上清直・岩瀬忠震・堀利熙が任ぜられていた。皆それぞれに幕末に一度は活躍するが、長くは続かない。外国奉行は家格の低さ故

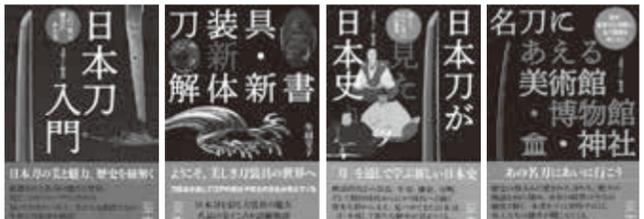
に、閣老たちから左遷されてしまうことが多く、中には自殺した者もいる。とにかく田辺太一はこの後十年間、幕府の外交を最前線で支えてゆくと、失敗ばかりだ。水野忠徳配下だったため、遣米使節団(勝海舟を中心として咸臨丸で行った最も有名な使節団)や遣欧使節団にも推挙されず、水野が自ら小笠原諸島に行った際に田辺も随行したが、それも途中で帰らなければならなくなる。

文久三年(一八六三)外国奉行支配組頭という地位に昇進し、ようやく仏国に行くことができた横浜鎖港談判では、交渉に失敗。組頭の役を解かれ退任させられてしまう。その後、小栗忠順の下で英国と折衝するもうまく行かず、最後は徳川民部大輔昭武を総代とする万国博覧会使節

一行に組頭に昇進して参加するも、薩摩が独自に参加するのを止めようと、五代才助にしてやられ失敗。(田辺や五代はNHK大河ドラマ「青天を衝け」にも登場していた) こうして書き進んでいくと、幕府の外交の失敗がそのまま田辺太一の失敗であり、この一連の事象こそ「万波を翔る」という題名の意味なのでしよう。そう、万波とは幾重にも寄せ来る波のことです。

新刊紹介

『刀剣ファンブックス』 『週刊日本刀』(株)デアゴスティーニ・ジャパン刊)全120冊の制作を完了した(株)天夢人から先ごろ、そのノウハウを結集した雑誌『刀剣ファン』(定価1,980円)が発刊されたが、同社では併せて「刀剣ファンブックス」という書籍シリーズを立ち上げ、第1弾として次の4冊が発行された(発売は(株)山と溪谷社)。 刀剣ファン編集部編『日本刀入門―この一冊で魅力がわかる』定価2,200円 生田享子著『刀装具 新・解体新書』定価2,420円 刀剣ファン編集部編『日本刀が見た日本史―深く面白く刀の歴史』定価1,980円 刀剣ファン編集部編『名刀にあえる美術館・博物館・神社』定価2,310円

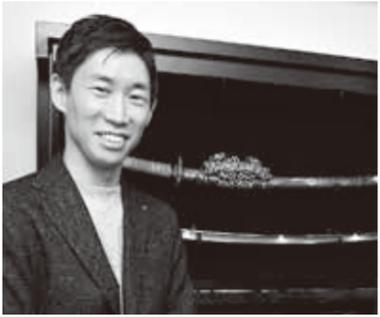


『酒井家世紀』 (庄内藩主酒井家文書史料集1) 酒井家初代・忠次から15代・忠篤まで、歴代の事績を追った唯一の歴史書です。藩主の動向や庄内の歴史を知る上で欠かせることのできない事歴が記されています。 A5判379ページ、価格3,500円十税(申込先) 致道博物館 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199/FAX:0235-22-3531



話題の 剣人 No.008

中村 圭佑 さん (刀箱師) 刀の美に普段に触れられる 展示ケースを



自ら設計した展示ケースと中村さん

皆さま、はじめまして。私は「刀とくらす。」をコンセプトに刀をインテリアとして、自宅や美術館のように楽しめる刀の展示ケースを製作しています。 「刀箱師」という造語を作り、三年ほど前からSNSを中心に活動しています。 もともとはセガという会社で約十年、UFOキャッチャーなどの設計開発に従事。物作りに必要な構造や材料特性、電気の知識などを学びました。 子供の誕生により三十歳で育児を取得、育児のかたわら、ふとしたことから刀を手に取り、刀好きが再燃し、初めての刀を購入。念願の一本は飛び上がるほどに嬉しく、夜な夜な鑑賞する日が三ヶ月ばかり続きます。 しかし、白鞘から刀を抜く作業がだんだんと億劫になり、部屋で美術館のように飾ればと思うようになり、当時は狭い空間に飾れる刀の展示ケースなどなく、あったとしてもアクリルで囲っただけの簡易的なものばかり。そこで、今まで培ってきた設計技術を生かし、狭い部屋でも楽しめる展示ケースの製作を決意。独立し、今では製作に専念しています。 日本の家屋は床の間が減ったこ

とで、刀を飾る場所は減少しています。私は製作を通して、刀の美術的な側面を見てくれる人を増やしたいと考えています。 よく「刀趣味は一代限り」と言われたりしますが、そうやってほしくありません。そうなるのは、子供たちが日常で刀を見る機会が少ないからだと考えます。 ただし、刀をただ置くだけでは鉄の塊。武器としての側面しか伝わりません。そうなる刀を試し斬りに使う人が増え、美術品としての刀は消耗します。 ライトを適切に当てることで、刀は初めて美しい美術品になります。当然、安全に飾ることも大切。 その状態で部屋に刀を飾れば、子供は毎日刀の美しさに触れます。「これは家宝だ」なんて言わなくても、それを見て育った子供は大切にすることでしょう。 現に、娘の誕生の際に作ったお守り刀を四歳になる娘はケースを通して毎日見ているが、「これは私の！」と言って既に大切にしています。今後、娘が友達を家に連れてきた時には、その友達も刀を見て感動することでしょう。 私はそういった偶発的な刀との出会いを増やすことで、将来の愛刀家を増やしたいと思っています。かく言う私も小学生の時、たまたまパートで行われていた刀の即売会で刀の美しさに触れたことが今につながっています。 現在、刀を見られるのは、美術館や刀剣店など非常に限られた場所しかありません。しかし、それでは限られた人にしか刀の魅力が届かない。 刀は長い歴史を経て伝えられてきた大切な宝です。後世にその魅

8の折々 うちの名物 中将餅 石井 理子

筆者は奈良県在住

その店は、近鉄南大阪線当麻寺駅の前にある。 地元、奈良県葛城市の名物よもぎ餅の店、中将堂本舗だ。 昭和四年から営業しているそう。 昭和三十九年に入った仔まいのお店だ。 ただ一筋に、中将餅を作り続けている。その一途さに安心するお客が多数。私もその一人である。 ちなみに私の師匠、美術刀剣前田の前田氏も大好物だ。事務所に向う時は、いつも提げていく。 「例の物ですが」と差し出すと、ニコッと笑っている。 こんな風に、差し上げた方はたいてい喜んでくださる。そんなわけで、失敗しない手土産としても重宝している。 私は一年を通してこの店の前をよく通る。大和伝で有名な当麻寺までのジョギングコースなのだ。 帰りに通ると、もち米とよもぎを蒸し上げる香りにクラッとする。 条件反射的に食べたくなるのだ。 やわらかめのよもぎ餅に、さっぱり甘いあんこ。そして、春にな

れば、自家栽培のよもぎが籠に盛り立て干されている。嗅覚、味覚、視覚を支配されてしまう。 「すいません、八個入りください」 やわらかい中将餅を持っては走れない。家までの残り一キロほどを、ゆるゆると歩いて帰る。 汗を流し、コーヒーを入れていただく。あんと、よもぎ、コーヒー。 連合軍に、心地よく敗北する。そして、いつも通りの味に安心する。 「変わらない」ということが、

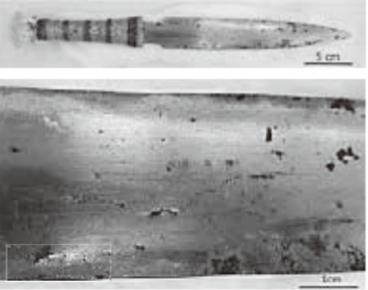


最高の美徳に思える。 決して手を広げることもなく、こごせしか買えない特別感。 うまず、たゆまず、続けるということ、その姿は私には道標のように思える。

大阪刀剣会 吉井唯夫 大阪市中央区日本橋二丁目一 TEL 〇六六六三二二二〇 FAX 〇六六六四四一五四六

NEWS & TOPICS ツタンカーメンの鉄剣の製造方法と起源を特定

千葉工業大学地球学研究センターおよび惑星探査研究センター所長の松井孝典氏率いる研究チームが、エジプト考古学博物館において、ポータブル蛍光X線分析装置を用いてツタンカーメンの鉄剣の非破壊・非接触での化学分析を行った結果、鉄剣が低温鍛造により製造されたこと、エジプト国外から持ち込まれた可能性を明らかにした。



古代オリエント世界で栄えたヒッタイト帝国(紀元前1200~1400年)は、鉄の製造技術を独占することで軍事的優勢を得たとされている。それ以前には、世界にはまだ鉄の製造技術はなかったと考えられている一方で、エジプトのツタンカーメン王(紀元前1361~1352年)の墓から、鉄剣が発見されたことは大きな謎であった。この謎を解き明かすため、2020年2月9日と10日に松井所長の率いる研究チームがエジプト考古学博物館を訪れ、ツタンカーメンの棺から発見された鉄製の短剣の現地調査を行った。 この鉄剣は紀元前14世紀に製作されたものであるが、棺の中で保管されていたため非常に保存状態が良く、錆などの劣化の影響が小さい。紀元前14世紀のエジプトには製鉄技術は存在しなかったため、当時の人々は宇宙から飛来した鉄隕石を加工し、鉄剣を製造したと考えられていた。2016年にイタリアの研究チームが鉄剣の調査を行い、鉄・ニッケル・コバルト濃度の測定から、鉄剣の材料が鉄隕石であることを確認したが、鉄隕石からの鉄剣の製造方法については明らかにされていなかった。

- 製造方法の根拠
・1925年の発掘当時と比べ、錆や腐食がほとんど進んでいない。
・元素分析の結果、10-12wt%のニッケルが含まれる。
・所々黒い斑点状に見られるものは、隕石の包有物である硫化鉄である。
・ニッケルの二次元元素分布は、ウィドマンシュテッテン構造を示している。
・ニッケル量、硫化鉄包有物およびウィドマンシュテッテン構造から、オクタヘドライトという種類の隕石が鉄剣の原材料である。
・ウィドマンシュテッテン構造および硫化鉄包有物が保存されていることは、低温鍛造により製造されたことを示す。

- 起源推定の根拠
・金の柄に少量含まれるカルシウムは、装飾物を接着する漆喰に由来すると考えられる。
・エジプトでの漆喰の利用は、ツタンカーメン王の時代の1000年以上前から始まったとされる。
・ヒッタイト帝国(現トルコ付近)の隣国であるミタンニからツタンカーメンの祖父であるアメンホテップⅢ世に鉄剣が送られたと記す古文書(アマルナレター)が存在する。
・金の柄の組成は、ツタンカーメンの鉄剣がミタンニから持ち込まれた可能性を示唆する。

組合こよみ (令和4年1~3月)

- 1月16日 東京美術倶楽部において持ち回り理事会を開催。前理事より意見を聴取し賛助会員証発行を決定
17日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定
2月9日 組合事務所において深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・飯田理事・大平理事が刀剣評価査定
16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第63号編集委員会を開催(企画)。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・眞賀理事・持田理事・土子民夫氏
3月3日 組合事務所において清水専務理事と嶋田常務理事が刀剣評価査定
11日 キャピトルホテル東京で開催された信和会政経セミナーに深海理事長・服部副理事長・清水専務理事が出席
12日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第63号編集委員会を開催(初校)。出席者深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・生野理事・松本理事・持田理事・土子氏
12日 東京美術倶楽部において刀文協・高森邦彦事務局長インタビュー。出席者深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事・網取常務理事・飯田理事・生野理事
16日 東京美術倶楽部において持ち回り理事会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤坂理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・眞賀理事・持田理事・土子氏
17日 深海理事長・服部副理事長・清水専務理事が産経新聞社を訪問し、「明美ちゃん基金」に30万円を寄託
22日 賛助会員に「賛助会員証発行のお知らせ」を発送

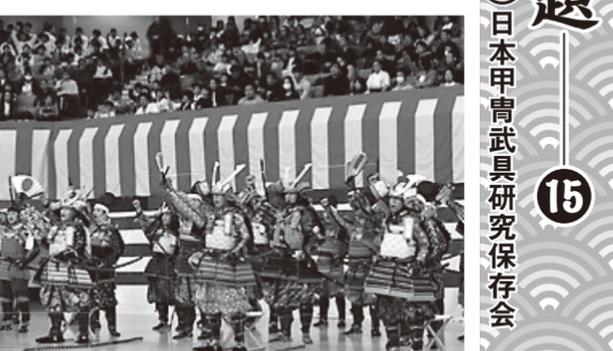
甲冑の話 15

私ども(一社)日本甲冑武具研究保存会(以下、日甲研)の恒例行事の一つに日本武道館主催の「鏡開き式」への参加があります。これは毎年、「成人の日」に催されます。

「成人」の日は「武道始めの日」でもあり、日本武道館では功勞者の表彰、現代九武道の模範演技等が行われます。表彰式に続いて、日甲研会員による「鎧の着初め・三献の儀、鏡開き、出陣」が執り行われます。一見すると、鎧武者のコスプレをしたオッサンたちがわらわら歩き回っているだけのようにも見えますが、決してそんなことではなく、正月の儀式の一つとして執り行われます。 そのような儀式ですので、衣装もそれなりに凝っていて、大河ドラマに衣装を提供している(株)高津装飾美術の甲冑を着て太刀を佩き、箆を帯び、弓・薙刀を持つなど、いわゆる時代祭りとは一線を画したものになっています。 友人の役者さんに聞いたところ

ろ、高津さんは大変有名で「高津の衣装はそこらの安いドラマではなかなか着れない」のだそうです。 なお、毎年若手名ではありますが、この鏡開き式への参加者が一般からも募集しています。高校生以上の男女でしたらどなたでもご応募いただけます。ご興味、ご関心のある方は、秋ごろから一般参加者募集をしますので、日甲研事務局までお問い合わせください。 (一社)日本甲冑武具研究保存会理事 佐々木亮

最高のも(一社)日本甲冑武具研究保存会(以下、日甲研)の恒例行事の一つに日本武道館主催の「鏡開き式」への参加があります。これは毎年、「成人の日」に催されます。



刀 剣 界

質問箱

第十四回 石堂一派

回答者 ● 冥賀 吉也



石堂一派についての質問がありました。今回はその概要について説明し、石堂各派の作風の相違点に関しては、次号とさせていただきます。

●各地に及んだ石堂一派

石堂一派とは近江国蒲生郡石塔村(現在の滋賀県東近江市石塔町)の出身で、江戸初期(寛永の末年ごろ)に江戸や紀州に移住し、古作一文字風の華やかな句本位の丁子刃を焼き、地に映りを表した刀工たちを指し、移住したその地にちなんで、それぞれ江戸石堂・紀州石堂などと呼ばれています。

石塔村出身者以外にも、石堂一派に属す刀工は見られます。

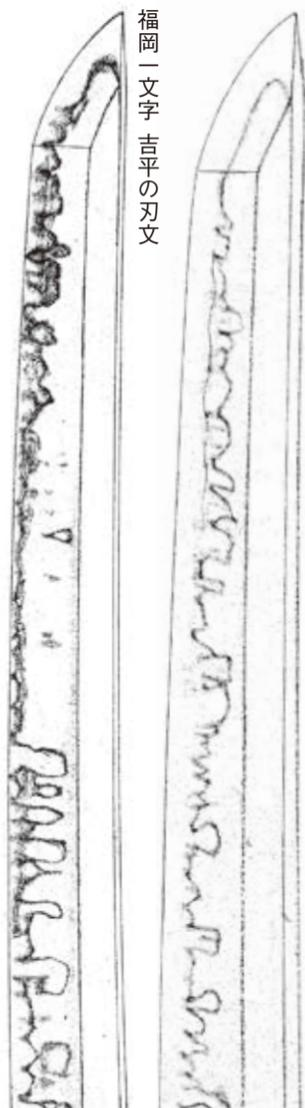
九州福岡の地から江戸に出て江戸石堂の一派に作刀を学び、帰国して同様の作風を製した是次・守次らは福岡石堂と呼ばれています。

また、紀州の地からさらに需要を求め、大坂に移った長幸らを大坂石堂、京に行った正俊・正忠兄弟を京石堂と呼びます。

遠く豊後高田から販路を求めて紀州に赴き、紀州石堂一派に技術を学んだと思われるが、その後、伊賀名張の地に移った鎮忠・鎮政らも伊賀石堂と呼ばれています。

一方、一文字を狙って華やかな丁子刃を焼き、地に映りを交えながらも、そぼろ助広や大村加卜らには石堂一派との関連が見られないために、石堂一派には含まれて江戸石堂 光平の刃文

福岡一文字 吉平の刃文



いません。

正保元年(一六四四)から元禄十五年(一七〇二)ごろまでの約六十年間には、華やかな丁子刃れが流行を見ました。石堂一派以外にも、大坂では親国助・中河内国助・初二代忠綱・豊長綱・大和守吉道らに丁子刃が見られ、また肥前一文字と称された出羽守行広にも足長丁子があります。ただし、彼らの作風は小沸出来であり、地に映りが見られず、石堂一派とは作風を異にしています。

次に、各々の石堂について説明していきます。

●近江石堂

石堂一派について語るには、まず近江石堂を取り上げておく必要があります。

近江石堂は新刀期の鍛冶でなく、室町期に近江国蒲生郡石塔村で鍛冶していた鍛冶集団の総称です。祖は備前長船の助長と言われています。

室町幕府第九代将軍・足利義尚が近江守護の六角高頼を討伐するために出陣した際(長亨・延徳の乱)これに呼応した赤松政則の重臣浦上則宗の命により、助長は長船勝光らとともに当地に参陣し、鍛冶していただきます(『陸奥野日録』)。

その後、勝光らは長船に帰りますが、助長は石塔村にとどまり、代々刀鍛冶を生業として江戸期に及んでいます。この地名にちなんで彼らを近江石堂と呼んでいます

が、残念ながら、近江石堂に有名刀工は一人もいません。

●江戸石堂

江戸石堂の代表的刀工としては光平・常光・一・宗弘がいます。彼らは江州蒲生の近江石堂の出身です。

いつごろ江戸に移住したかですが、光平の最初期の年紀に正保三年(一六四六)、常光の作では慶安元年(一六四八)があることから類推して、寛永十五(一六三八)〜十七年前後ではなかったかと思えます。

からは前記の江戸石堂派鍛冶のほかに全国各地から多くの刀工が集まってきました。

●江戸石堂

江戸石堂の代表的刀工としては光平・常光・一・宗弘がいます。彼らは江州蒲生の近江石堂の出身です。

いつごろ江戸に移住したかですが、光平の最初期の年紀に正保三年(一六四六)、常光の作では慶安元年(一六四八)があることから類推して、寛永十五(一六三八)〜十七年前後ではなかったかと思えます。

ところで、寛永後半から明暦ごろにかけて江戸に多くの刀工が移住した理由として、次のようなことが考えられます。

①地方では関ヶ原の戦の後、刀剣の需要が徐々に少なくなってきたこと。

②江戸では寛永十二年に参勤交代制が始まると、人口が急激に増加し、武士も増えて刀剣の需要が高まったこと。

③剣術が奨励され、介者剣法(甲冑を着用した武士相手の剣術)から素肌剣法(甲冑を着用しない武士相手の剣術)に変化したために、新たな刀姿の刀が求められたこと。

④明暦三年(一六五七)の大火により、江戸では膨大な数の刀剣類が焼失し、新たな刀剣の需要が生まれたこと。

徳川家康の命により、江戸の地にはもともと康継や繁慶らについて鍛冶していましたが、寛永のころ

から、江戸石堂一派の一人である長曾祿虎・興正、紀州から大和守安定、但馬国から法城寺正弘一派、美濃国赤坂から千手院盛国、越後国から大村加卜等々、後に江戸新刀を代表する名工たちが集まり、技を競い合いました。

●江戸石堂

江戸石堂の代表的刀工としては光平・常光・一・宗弘がいます。彼らは江州蒲生の近江石堂の出身です。

いつごろ江戸に移住したかですが、光平の最初期の年紀に正保三年(一六四六)、常光の作では慶安元年(一六四八)があることから類推して、寛永十五(一六三八)〜十七年前後ではなかったかと思えます。

ところで、寛永後半から明暦ごろにかけて江戸に多くの刀工が移住した理由として、次のようなことが考えられます。

①地方では関ヶ原の戦の後、刀剣の需要が徐々に少なくなってきたこと。

②江戸では寛永十二年に参勤交代制が始まると、人口が急激に増加し、武士も増えて刀剣の需要が高まったこと。

③剣術が奨励され、介者剣法(甲冑を着用した武士相手の剣術)から素肌剣法(甲冑を着用しない武士相手の剣術)に変化したために、新たな刀姿の刀が求められたこと。

④明暦三年(一六五七)の大火により、江戸では膨大な数の刀剣類が焼失し、新たな刀剣の需要が生まれたこと。

徳川家康の命により、江戸の地にはもともと康継や繁慶らについて鍛冶していましたが、寛永のころ

から、江戸石堂一派の一人である長曾祿虎・興正、紀州から大和守安定、但馬国から法城寺正弘一派、美濃国赤坂から千手院盛国、越後国から大村加卜等々、後に江戸新刀を代表する名工たちが集まり、技を競い合いました。

●福岡石堂(筑前石堂)

是次は二十七歳の明暦元年(一六五五)、さらに技術を磨こうと決意し、筑前福岡藩主黒田光之の許しを得て江戸に上り、武蔵大塚は一に師事しました。そこで備前伝の秘奥を学び、帰国して大成し、筑前左文字とも称されています。

活躍年代は明暦・寛文・延宝のころで、天和元年(一六八一)五十三歳で没しました。

是次には子がなく、従兄弟である三歳年下の守次を養子に迎えて活躍しました。守次は元禄十四年(一七〇一)、六十九歳で没しています。

是次と守次にはわずかに作風の違いが見られますが、その点については次号で説明しましょう。

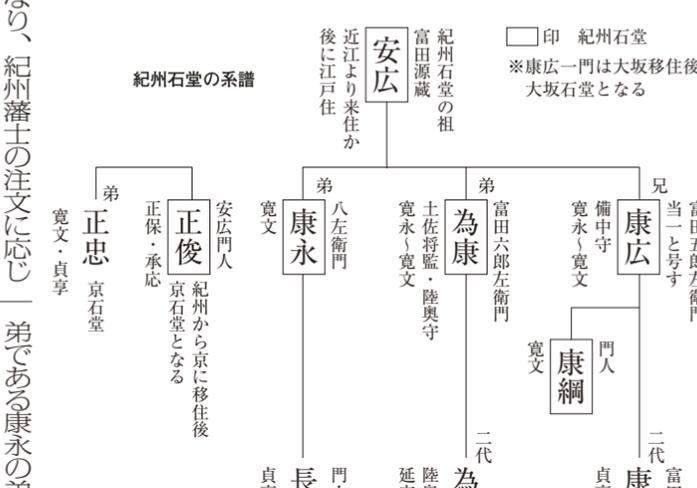
紀州石堂の祖と言われる安広は近江国石堂村から来住したのか、あるいは紀伊国富田村の出身なのか、はっきりとしません。また、紀州石堂の代表刀工である康広と為康のいずれが兄弟なのかも、昔から諸説があって定まりません。

しかし、安広が寛永十三年(一六三六)、紀州徳川家に四十石で召し抱えられながら、わずか八年後の正保元年(一六四四)に解雇されたことは『南紀徳川史』に記載されています。

ところで、安広一党がなぜ紀州に移住してきたかについては、元和五年(一六一九)に家康の十子頼宣が五十五万五千石で入国し、多くの家臣を抱えたために刀剣の需要も増えたことが考えられます。その時期は天和末年から寛永前期と思われる、その点から江戸石堂一派より早い時期の移動が推定されます。

寛永初年ごろからは子の康広・為康や同族と思われる正俊らが中

心となり、紀州藩士の注文に応じて盛んに鍛冶しています。



現存作には「紀伊国富田一康広」「紀州住士佐將監橋為康」「紀州住正俊造」など、当地の銘が数多く見られます。しかし、安広が紀州家から解雇されたころより注文が激減したと見られ、それには家臣に刀剣が一応行き渡ったことや、紀州家の抱え工となった南紀重国との軋轢なども起因したと考えられます。

そこで、康広・為康らは販路を別の地に求め、大坂に移住して大坂石堂となりました。初代康広の

●大坂石堂

康広を筆頭とする紀州石堂一派が移住した正保・慶安のころ、大坂には既に全国各地から多くの刀工が需要を求めて集結し、盛んに鍛刀していました。その意味では、少々出遅れた感があります。

京からは堀川一門の初代和泉守国貞・初代河内守国助が来坂し、三品一門では初代丹波守吉道の次男丹波守吉道が大坂丹波として活躍しています。大和国からは手掻末流の左陸奥包保、播州からは初代忠綱、初代国助門のそぼろ助広も移住しています。そして、このころは彼らの二代あるいは門人たちが活躍し始めた時代でもあったのです。

そのような激戦地に移住してきたので、相当な苦勞があったに違いありません。康広・為康・康永らは必死で頑張り、二代目に引き継いでいます。

そんな中、康永の門人多々良長幸の活躍がひときわ目立ちます。石堂一派の伝統である丁子刃に映りを交えた備前伝をよくし、一文字字写し・応永備前写し・末備前写しなどを注文に応じて製作し、大坂の武士や商人に大喝采を浴びました。特に大脇指の作品が多く、またその傑作が多く見られることも特筆されます。

長幸は新刀一文字・大坂石堂とも称され、真改・助広の両横綱にも引けを取らない人気がありました。最上大業物としても名高いものがあります。

大坂石堂には移住後の初代康広・為康・康永も当然含まれますが、それぞれの二代の時代になると、石堂風の作風は徐々に薄れていきました。

●京石堂

康広らとほぼ同時期に紀州を離れ、京に移住した刀工に正俊・正忠兄弟がいます。正俊は紀州石堂の祖父の弟子と思われ、京石堂

の名があります。「平安城石堂右近正俊」などと切り、華やかな丁子刃に映りを交えた石堂の作風で上手です。

弟子に「城州五条住石堂助光」「平安城住石堂助利」と銘する刀工がいますが、京石堂一派の遺存作はきわめて少ないものです。

その理由として、正俊らが京に移住した正保・慶安のころには、堀川国貞一門や三品一門などの強力なライバル刀工が大勢いたことや、刀剣の需要が減り始め、親国貞や親国助らのように需要を求めて大坂に移住した時期でもありません。

延宝ころの作品に「武州住石堂左近橋正忠」「平安城武州住正俊」などが銘鑑に見られるところから、京からさらに江戸へ移住した可能性も考えられます。ともあれ、京石堂一派はあまり振るわなかった一派と言えます。

●伊賀石堂

室町期にそれだけ栄えた豊後刀も文禄二年（一九五三）二月、秀吉により大友家が改易されたことにより衰退しました。豊後刀は、帰農したり、雌伏の時を送ったり、他国に需要を求めて故地を離れていきました。

そのうち、鎮忠・鎮政・鎮知・鎮弘らの一族は、慶長から元和にかけての一期期、紀州の地に足跡を残しています。「於紀州肥前守藤原朝臣鎮忠造」の銘がそのことを物語っています。

鎮忠一族は紀州石堂一派の人々とも交流があったと思われ、丁子刃に映りを交えた作風を多く残しています。これらの銘文や作風から、伊賀石堂と呼ばれています。彼らは伊賀国名張で作刀しており、それぞれ寛文ころまで活躍しました。名張の地は伊賀上野と隣接しており、藤堂家や伊賀忍者との関連も推察できることです。

しかし、作品はそれほど多く残されておられません。

刀剣商リレー訪問 31 深海雄一さん（青山不動）

不動の志を持ってこの道を往く

港区北青山に深海雄一さんをお訪ねしました。刀剣商を志す前は、NTTの関連企業に勤務されており、他業種のスキルを生かした活躍が期待される令和の刀剣商です。

雄一さんは銀座長州屋さんでの修業を経て、一昨年三月に当地で「青山不動」の看板を掲げ開業しました。銀座線外苑前駅の3番出口を出ますと、すぐ目の前にある建物の三階が青山不動さんです。雄一さんとはいくつか開業される交換会でお会いできますが、平時的な会話は慌ただしいことが多くゆつたりと話すことができません。店内に入りますと、力強く書かれた「青山不動」の扁額がまず目に入ります。お聞きしますと、ダウン症という障害を持ちながら活躍する書家の金澤翔子さんに依頼して書いてもらったとのこと。この方の母も書家であり、娘がダウン症と診断された時は、親子心中まで考えたそうです。その後、娘の可能性を信じ、親子で泣きながら猛特訓をして大成されたのでした。

店名の由来は、都心でありながら自然に囲まれており、歴史・文化をテーマとする施設が集まる心地よい洗練されたロケーションであること、古来伝承されてきた武家文化の芸術作品を、大切に未来に伝えていくという不動の志を忘れないようにと、決めたとのこと。駅の近くでもあり、不動産屋さんや間違って業者が来店したこともあったそうです。

開業して二年経過しましたが、この間、新型コロナウイルスが猛威を振るい、現在も経済に大きな影響を及ぼしています。スタートが重なり、順風満帆な船出ではなかったのではと想像します。「お客さまのご来店をいつでも心待ちにしていますが、開店後すぐにお客さまがいらっしゃるとは考えづらかったため、ホームページなどの制作や喜んでいただける商品の取り揃えに力を入れた期間でした。やらねばならないことはまだまだあります。また、この道は生涯勉強の世界でもあると思います」

洗練された店内は、都心であることを忘れさせてくれる癒しの場でした。「刀剣や刀装具類を一度も手にされたことがない方でも、気軽に立ち寄っていただける店づくりを心掛けています。さらに目利きの数寄者の方々にも興味を持っていただける商品の取り揃えを今後、一層力を入れていきたいです」

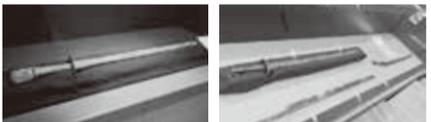
常々お会いする時は穏やかな人柄の面しか見受けられませんが、本日は店名にふさわしい不動の志をお聞きすることができました。

■青山不動 〒107-0061 東京都港区北青山二丁目一八番第一真砂ビル三階 ☎03-3542-1100 <https://aoyamadofdo.co.jp/> (嶋田伸夫)

〈展覧会レポート〉刀剣博物館で「日本刀 多彩なる造形展」を見る

東京・両国の刀剣博物館で展覧会「日本刀 多彩なる造形展」が開催されている。流派や国、特定の作家を中心に開催されることが多い刀剣の展覧会としては異色のタイトルで、当方への出品依頼やチラシから推して奇抜な形の作品を集めた展覧会と認識していたが、実際に足を運ぶと、長年親しんだ同博物館であるが全く拝見したことのない作品が多く、同館の懐の深さをあらためて感じる優れた展示内容であった。

写真撮影が可能とのことから、いくつか気になった作品を紹介させていただきます。



まず最初は「日本刀誕生の歴史」と題して上古刀の一群が展示されているが、入ってすぐに目に入ってくるのが全長142センチにも及ぶ圭頭大刀である。ここまでは大仰な作は非常に珍しく、特別な身分にある人物の特注品かと思われる。石井彰学芸員によると、これだけ見事な作品であるにもかかわらず、展覧会に供されるのは初めてではないかというから驚きである。ほかにも國學院大学博物館の所蔵する直刀や毛抜形太刀が出品されている。



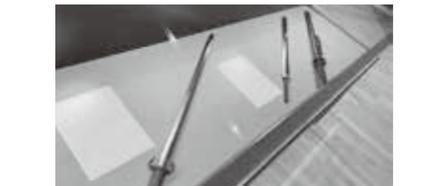
続いて「武士の台頭 鎌倉時代」では同館所蔵の名刀、国行（号明石国行）などが並ぶ。

「南北朝時代と磨上」では靖国神社遊就館から重要刀剣審査に申請されて話題となった大太刀 銘 正家や、何と同館以外で初の展示となるという巨大な包丁正宗の姿が。

以降「槍」「大太刀」「薙刀」「刀装具」と続くが、名品から経眼の記憶のない珍品まで多数展示されていた。その中からいくつかを紹介。



尾張貫流槍術に用いられるという「管槍」は、瞬発的に刺突の繰り返しが可能な様式とのこと。



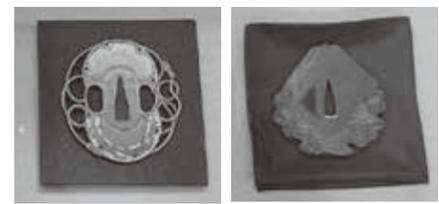
「剣の造形」共柄の剣（末手掻）に、名人は何を作らせても見事だと感心させられる直胤の剣。



「槍の造形」より、各種形態の槍。



「薙刀の造形」より。播州手柄山氏繁の特徴的な作品は、拵付きで展示されている。



「刀装具の造形」より、鼓透鐔 銘 因州住駿河卓置 富士図鐔 銘 予州松山住人 正阿弥盛国作



「刀装の造形」より、希少な銀蛭巻太刀拵など。

個人蔵のため写真の掲出は控えるが、ほかにも「変形造形」の非常に個性的な水心子正次の脇指などは特に素晴らしい造形と感じた。

ぜひ多くの方々にも足を運んで観覧していただきたい。(飯田慶雄)

■刀剣博物館 〒130-0015 東京都墨田区横綱1-12-9 ☎03-6284-1000 <https://www.touken.or.jp/museum/>

日本刀 多彩なる造形展

日本刀の造形は、時代によって発生した戦闘方法の違いなどにより、一千年の刀剣史上でさまざまな変化を遂げてきました。それらは時代によって長短に違いが見られ、また幅の広狭や反りのつき方など、その造形は製作された時代の特色を多く語ってくれています。一方で、時代の潮流にそぐわない奇抜な造形が存在し、それなどは注文主の意向が強く反映されたものとして見逃せません。また、刀装を構成する金具類の一つである鐔は、機能性を前提としながらも自由な造形が許された金具であり、多様な形状が目立ちます。

本展覧会では、日本刀様式誕生以前の出土刀から、時代による姿の違いを追うとともに、珍奇な造形の刀剣類や多様な鐔の形状など、日本刀を中心とした多彩なる造形に焦点を当て、新たな魅力を探ろうとするものです。

会期：令和4年2月26日(土)～5月22日(日)



催事情報

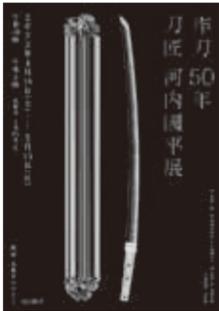
■虎屋 京都ギャラリー
〒602-0911 京都市上京区烏丸西入広橋殿町400（虎屋菓寮京都一条店横）
☎075-431-4736

作刀50年—刀匠 河内國平展

この度、虎屋京都ギャラリーにて、現代を代表する刀匠・河内國平氏の作刀50年を記念した展覧会を開催します。

河内氏と虎屋はかねてより交流があり、作品展は2014年に続いて2回目。今回は、刀匠として異例の相州伝と備前伝の2つの流派を習得された氏の、50年に及ぶ刀作りを振り返り、処女作から刀剣界最高の栄誉である正宗賞の受賞関連作品、初公開の最新作に至るまで、選りすぐりの作品を約15振展示します。また、日本の伝統文化や工芸の要素を取り入れた作品を発表されている、館鼻則孝氏とコラボレーションした現代美術の作品も特別展示します。

ただ一心に仕事に打ち込んでこられた現代の刀鍛冶の歩みとともに、今なお進化を続ける刀匠の、刀作りへの情熱も感じ取っていただければ幸いです。
会期：4月16日(土)～5月15日(日)



■群馬県立歴史博物館
〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1 ☎027-346-5522
<https://grekisi.pref.gunma.jp/>

企画展「戦国上州の刀剣と甲冑」

戦国時代の刀剣の作風は山城などの五カ伝に分けられているが、上州の郷土刀は五カ伝の中の相州伝を基礎としている。そのため、正宗などきわめて著名な相州伝の刀剣の系譜を受け継いだ上州の郷土刀を展示する。甲冑では、上杉や武田といった戦国大名にも愛用された上州甲冑師の製作した兜が複数確認されている。東国の中でも特定の甲冑師が製作した甲冑がこれほど残存していることは、大変に貴重であり、上州の刀剣・甲冑が全国的に高い水準にあったことを示す。

会期：7月9日(土)～8月28日(日)



太刀 正宗

■備前長船刀剣博物館
〒701-4271 岡山県瀬戸市長船町長船966 ☎0869-66-7767
<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/>

テーマ展「地域の奉納刀—真庭・瀬戸内編—」

刀剣は、信仰の対象や祈願の対象となるなど、人々と密接な関係を持っていました。また、鎌倉時代以降には、武士から農民までさまざまな立場の人が武運や商売繁盛などを祈るとともに、神仏に崇敬の気持ちを込めて全国各地の神社・仏閣に刀剣を奉納していました。中でも岡山県は、刀剣の産地でもあったことが関係するのか、水田国重や上野大掾祐定・祐永らをはじめとした地元根付いた刀鍛冶が、神社や仏閣の境内で刀を作り、奉納することが行われました。このため、県内各地には刀剣を所持する寺社が今でも多く残っています。今回の展示では、岡山県の刀剣生産地の1つでもある瀬戸内市周辺と真庭市周辺を取り上げ、普段見ることのできない寺社に奉納された刀剣類を一堂に展示するとともに、日本全国で見られた地域と信仰の一端を紹介いたします。

会期：4月2日(土)～6月5日(日) 来館事前予約制

■野田市郷土博物館
〒278-0037 千葉県野田市野田370-8 ☎04-7124-6851
<https://noda-muse.jp/>

市民コレクション展「刀百姿—彩緋せぬ日本刀の燦—」

野田市美術刀剣会との共催による刀剣展覧会。約60振りの古今東西の美術刀剣のほか、名工による鐔や小柄などの刀装具を一堂に紹介。また会期中「刀剣なんでも相談会！」「日本刀を持ってみよう！」「刀剣基礎講座」などのイベントを予定しており、初心者のご来場も歓迎です。

会期：4月9日(土)～5月29日(日)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■永青文庫
〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1 ☎03-3941-0850
<https://www.eiseibuncho.com/>

春季展「戦国最強の家老—細川家を支えた重臣松井家とその至宝—」

細川家は初代・藤孝が信長に仕えて以来、江戸時代の終焉まで国持大名として存続しました。織田・豊臣・徳川と政権が移行する過程で滅亡した大名が多い中、このように長きにわたって存続できた背景の一つには、細川家筆頭家老・松井家の活躍がありました。

松井家初代・康之（1550～1612）は武略に優れ、数々の戦功を細川家にもたらしました。とりわけ秀吉からその働きが評価され、直参大名取り立ての申し出を受けるも、細川家への忠義から固辞しています。二代・興長（1582～1661）は主君に対しても忌憚のない意見を述べ、50年にわたって細川家を支え続けました。そうした細川家にとって最も重要な家老であった松井家の文物は、今も熊本県八代市の松井文庫に継承されています。

松井文庫には、康之と興長が深い関係を築いた千利休や古田織部、剣豪・宮本武蔵ゆかりの史料や作品も現存しています。利休が秀吉の勘気に触れて京を追われたとき、見送りに来てくれた細川家二代・忠興と織部への感謝の気持ちを康之に言づけた手紙や、興長の仲介により熊本藩細川家に客分として招かれた武蔵の水墨画など、貴重な品を多く含みます。

本展は、永青文庫と松井文庫の伝来品により、主君と家老の関係を東京で初紹介するものです。利休、武蔵らの名品を一堂に展覧するとともに、康之と興長の活躍ぶりを史料からたどり、最強の家老たるゆえんを探ります。
会期：3月12日(土)～5月8日(日)



銀箔押尖笠形兜

■愛媛県美術館
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内 ☎089-932-0010
<https://www.ehime-art.jp/>

名刀は語る展—一時を超え、受け継がれる美と心—

名刀が美しい輝きを放っているのは、鍛刀されてから今日に至るまでの数百年の間、絶えず日本刀を守り、磨き続けていた人々の手があったからです。本展では、日本有数の刀剣コレクションを誇る佐野美術館の収蔵品から平安時代から江戸時代にかけての国宝・重要文化財に指定されている刀剣、刀装具、約100点を展示します。なかでも国宝「太刀 銘 一」は、実に36年ぶりに愛媛で展示されます。さらに「刀剣乱舞」のキャラクターにもなった、名槍「蜻蛉切」、重要文化財「松井江」といった珠玉の名品たちも展示されるほか、伊予今治城主藤堂高虎が所有した名刀「正宗」（重要文化財）といった愛媛ゆかりの刀剣が県内初公開されます。また伊佐爾波神社・東雲神社に伝わった名刀（重要文化財）を、本展に合わせて特別公開します。約千年にわたる日本刀の歴史を通じて、日本人が培ってきた美意識や文化をお伝えすることができれば幸いです。

会期：4月16日(土)～6月12日(日)



■桑名市博物館
〒511-0039 三重県桑名市京町37-1 ☎0594-21-3171
<https://www.city.kuwana.lg.jp/bunka/bunkashisetsu/hakubutsukan/index.html>

春の企画展「刀剣幻想曲・再演」

2020年に新型コロナウイルス感染防止のために中止になった企画展「刀剣幻想曲」が2年越しで開催。本展では、村正をはじめとした桑名ゆかりの刀工や、近年調査して明らかになった伊勢国ゆかりの刀剣を披露します。さらに、過去に出品した後「もう一度見たい」というご要望を多く頂戴した刀剣を展覧します。刀剣・刀装具の鑑賞方法はもちろん、刀剣の由来や、刀工による技法の違いなど、知っているともより楽しめる刀剣の奥深い魅力をご紹介します。

会期：3月12日(土)～5月8日(日)



■致道博物館 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199 <https://www.chido.jp/>

2022年度のイベント・企画展

タイトル	会期	概要
酒井家庄内入部400年記念特別展【第1部】徳川四天王筆頭・酒井忠次	4/14(土)～5/29(日)	酒井家興隆の礎を築いた初代・酒井忠次の事績を紹介。忠次は徳川家康の立身出世を支え、のちに徳川四天王筆頭と称された。織田信長や徳川家康から拜領した国宝の太刀2振をはじめ、美術工芸品や古文書、歴史資料から徳川家重臣としての忠次の活躍を辿る。
酒井家庄内入部400年記念特別展【第2部】中興の祖・酒井忠徳と庄内藩校致道館	6/1(土)～7/18(日)	藩主酒井家中興の祖・9代忠徳の生涯を辿る。若くして当主となった忠徳の藩政改革、藩校致道館の創設や教育内容を紹介。また、様々な事績と驚きのエピソードや、和歌・俳諧資料や交友から、文化人としての側面にも着目する。
酒井家庄内入部400年記念特別展【第3部】民衆のチカラ ～三方領知替え阻止運動～	7/22(土)～9/7(日)	天保11年(1840)、幕府が命じた三方領知替え。酒井家の長岡移封を阻止するため、庄内領民の大規模集会や江戸での直訴を繰り返す。民衆のチカラがうねりとなって、日本全国に影響を与えた阻止運動の様相を、歴史資料や古文書から探る。
酒井家庄内入部400年記念特別展【第4部】藩祖・酒井忠勝	9/10(土)～10/31(日)	3代・酒井忠勝は、元和8年(1622)に藩主として初めて庄内に入部した。最上家統治時代の流れを受け継ぎながら、領内の総検地、鶴ヶ岡城の整備や城下の町割り、新田開発を実施し、酒井家400年の基盤を整えた藩祖・忠勝の事績を紹介する。「短刀 銘 吉光」、襖院額字「潮音堂」（共に重要文化財）等を出品。
酒井家庄内入部400年記念特別展【第5部】酒井家の明治維新～戊辰戦争と松ヶ岡開墾～	11/3(土)～12/25(日)	幕府方として戦い抜いた戊辰戦争、明治の新たな時代の松ヶ岡開墾事業を紹介。版籍奉還後の酒井家の歴史にも焦点を当て、歴史資料や写真資料などから時代の転換期に迫る。
第43回 鶴岡書道会会員展	2023.1/5(土)～1/22(日)	鶴岡市にあり、流派を超えて活動する書道団体。昭和8年創設。
新収蔵品展～刀剣・美術工芸品を中心に～	2023.1/26(土)～3/12(日)	鶴岡出身の愛刀家・三矢宮松(1880～1959)旧蔵の脇指・短刀や、幕末に活躍した旧庄内藩士・石川静正(1848～1925)の遺品や、書画を中心に出品。脇指額銘「恒光」拵付、日下部鳴鶴筆七言対句、石川淡雲・淡水合作山水四屏風他。
第29回 鶴岡雑物語	2023.3/1(土)～4/3(日)	市内各所で開催され、鶴岡に春を告げる恒例の行事「鶴岡雑物語」展。当館では、旧庄内藩主酒井家や旧家伝来の雛人形と雑道具、鶴岡伝統のお雛菓子を一室に展示。大名家ならではの、典雅な雛祭り。
花鳥風月	2023.3/15(土)～4/26(日)	時に美しく、時に厳しく、四季折々の表情をみせる日本の風土。移りゆく自然美は、今も昔も画家たちを魅了する。本展では「花鳥風月」をキーワードに、館所蔵の花鳥画、風景画を中心に紹介する。